

名手訪問

高梨 兵左衛門 (たかなし ひょうざえもん)

対談 高梨 兵左衛門 (キッコーマン株式会社特別顧問)

西川 扇藏 ((財)日本舞踊振興財団理事長)

[敬称略]



2007年11月26日
(於: キッコーマン株式会社)

西川 一昨日は私どもの一門の舞踊会にお出ましいただきましてありがとうございます。

高梨 大変楽しく拝見させていただきました。大勢のご一門の方々がさまざまな演目で入れ代わり立ち代わり登場されましたので、終演までいさせていただきました。おかげさまで西川先生のお舞台も拝見できまして有意義な一日を過ごしました。

西川 恐れ入ります。奥様とご一緒に長時間劇場にご滞在されてお疲れのことかとお察しいたします。またたいしたおもてなしもできずに申し訳なく思っております。

高梨 そんなことはありません。私は日本舞踊にはさほど馴染みがあるわけではありませんが、元来ジャンルを問わず舞台芸術を鑑賞するのが大好きなものですから、今回もあつという

間に時間がたってしまいました。

西川 大変光栄なことだと思います。

高梨 ことに西川先生が一番最後に上演された素踊りには感銘を受けました。

西川 どうもありがとうございます。

高梨 もちろん衣裳やかつらをつけられた古典の舞踊も興味深く拝見いたしました。一方、紋付と袴であとは扇子でだけで上演された素踊りには、何か日本舞踊の本質があるような感じがいたします。つまり無駄なものをすべて省いた日本独自の伝統のようなを感じたわけです。

西川 仰るようす素踊りはあらゆるもの削ぎ落として表現しますから容易にできるものではありません。

高梨 実は私は今回の素踊りを拝見いたしましたあることを思い出しました。

西川 なんでしょう。

高梨 私の生家は千葉県の野田市ですが、

- 若い時分に消防団長をしておりました。消防には消火をするための操法というのがございます。また野田という所は江戸川と利根川に囲まれていて、水害が結構多かったのですね。それで水防のための工法もございまして、ともに江戸時代から続いているのですが、これがまさしく一挙手一投足全く無駄のないもので本質だけが残っているという感じなのです。
- 西川 なるほど、郷土における生活文化ですね。
- 高梨 はい、今でも訓練で使われています。このようなことと舞台芸術を一緒にすることはおこがましいのですが、私は日本の美学を感じなのです。
- 西川 日本特有の美学といいましょうか、日本らしさというようなものは我々の身の回りにはたくさんあるような気がします。
- 高梨 そうですね。日本の美意識というものは、何か曖昧なものを残すような所がありますね。例えば数字で申しますと割り切れる偶数よりも奇数を好みます。
- 西川 なるほど、俳句や短歌は五音と七音のことばで成り立っていますし、三三七拍子や三三九度もそうですね。
- 高梨 はい、そもそも生後まもなくのおめでたい行事がお七夜、それから七五三があつて昔の元服は15歳です。不祝儀の儀式も三回忌、七回忌のようにみな奇数です。また、建造物などもシンメトリーのものよりも左右非対称のものに美を見出します。
- 西川 我々の世界で言えば、間（ま）の使い方がまさにそういうことであって、ピタリと決まったものは余り面白くありません。
- 高梨 微妙なところなのでしょうね。
- 西川 私も日本の伝統という観点から考えますと、日本舞踊に三百年伝わる流派の十代目になるのですが、特別顧問のお家も相当の歴史と伝統を有するようですが。
- 高梨 私は高梨兵左衛門としては三十代目になります。
- 西川 それはかなりのものですね。
- 高梨 もともとは信濃の高梨一族の出といわれてますが、私の生家がある上花輪の墓地の墓石には、長治2(1105)年に現在の郷に移ったと記されております。代々兵左衛門という名前を襲名しております、上花輪は後に野田市に併合されました。
- 西川 九百年余りですか、現在三十代続いている家はそうはないでしょうね。
- 高梨 ただ古いだけなんですよ。私の家で醤油の醸造を始めましたが寛文元(1661)年ですから350年ほど前になります。しかし当時は農閑期の副業のような状況だったそうです。
- 西川 なるほど。
- 高梨 もちろん現在のような澄んだ製品ではなかったようです。それは微生物にしても現在のような純粋培養などできない時代のことですから当然でしょうけれど。
- 西川 我々が普段口にしている味ではないのですね。
- 高梨 はい、違うでしょうね。それでちょうどその頃同じ千葉県の銚子地方でも醤油を作り初めまして、今のヤマサ醤油やヒゲタ醤油の元ですね。
- 西川 同じ時期ですか？
- 高梨 銚子の方が若干早いようですがほぼ同じ頃と伝えられています。それで時代が下って私の祖父に当たります二十八代当主の大正年間に、一族が集まってキッコーマンの前身になる野田醤油株式会社を設立したわけです。
- 西川 それで現在に至っているわけですね。しかし当主として家を継ぐにあたり名前まで襲名なさるのですね。
- 高梨 そうなんです。しかし襲名といいましても歌舞伎や日本舞踊の世界とは全く違いまして地味なものです。
- 西川 そんなことはないでしょう。
- 高梨 いやいや地味で面倒な作業なんです。父である先代が亡くなったのが昭和

63年で、三回忌を終えてから手続きをいたしました。通常戸籍の名前を変えることはできないのですが、私どものような家督を継ぐ場合に例外措置となっております。それでも家庭裁判所に何度も出向きましたヒアリングをいたしました。

西川 大変なことでしたね。

高梨 はい、しかし大変なのは襲名した後も続きます。パスポートから自動車免許証、金融関係の書類、名刺にいたるまで全てチェンジしなくてはなりません。

西川 お察し申し上げます。

ともあれ日本の食文化の歴史を語る上では醤油を欠かすことは出来ません。私どもは日本舞踊の国際化を大きな使命として捉えておりまますので、諸外国を訪問いたしますが、先進国はまずどこでも醤油はございました。しかし10年以上前になりますが或る開発途上国に行ったときに小さな醤油の容器があったのには驚きました。

高梨 恐れ入ります。醤油の海外進出も戦後直ぐに実行いたしました。昭和25年にハワイがまず手始めです。

西川 日系人が結構いらっしゃるから待ち望まれたでしょうね。

高梨 仰るとおり日系人が最初のターゲットでした。その後米国の西海岸に進出いたしました。

西川 さぞ喜ばれただろうかと思います。

高梨 はい、それで当初は商社を通じて輸出をしておりましたが、1957年にサンフランシスコに自社の輸入販売会社を起こしました。



西川 ちょうど50年ですね。

高梨 はい、そうです。1973年にはウィスコンシン州に工場を作りました。

西川 全て現地で生産されるのでしょうか。

高梨 一貫生産です。原料処理から製品まですべて現地の工場で行います。

西川 それは驚きました。

高梨 日本と同じ規格で生産しております。



ただ醤油は微生物のはたらきを利用して作るものですから、厳密に言えば多少違うことは否めません。しかし大方の日本人には区別がつかないでしょう。よほどの方でないとその差はわかりません。

その程度の違いと言っておきましょう。

西川 たいしたものですね。醤油は日本で発祥しまして、当然のように日本食にはなくてはならないものですが、案外洋食にも合うのですね。アメリカの分厚いステーキ等は醤油を使ったほうがたくさん食べられます。

高梨 そうですね、最早あまりこだわることもありません。お好みに応じて利用されることがよろしいかと思います。

西川 ところで特別顧問はクラシック音楽に大変造詣が深いようですが。

高梨 私は若い頃からイタリアオペラに非常に興味を持っており、そんなこともあって新国立劇場の役員を設立当時からやらせていただいております。

西川 あちらの劇場ができるからオペラ等も頻繁に上演されるようになりました。しかし相當に経費もかかるのではないかでしょうか。

高梨 大雑把に言って再演での一億円、新演出では二億という数字が目安になっております。

西川 私どもの日本舞踊にもいえることなのですが、総合芸術の体を為しているものはどうしても経費がかかりま

す。もちろん必要最小限に抑える努力はいたしますが。しかしそのような努力をしてもこれ以上はどうしようもないという限界があります。その限界を削るとなると手抜きになります。それでは本末転倒なのですね。公演規模が大きくなればなるほどこの問題との戦いになります。

高梨 仰るとおりでしょうね。優れた舞台芸術を鑑賞していただくための第一歩としては、より多くの方々を啓蒙していく必要がありますね。オペラなどは食わず嫌いの人が多いのでまず知っていただくことが大事ですね。

西川 日本舞踊にも当てはまることです。
高梨 鑑賞人口が増えれば企業も放っておかないと思うのです。現に私どもの会社も企業メセナ協議会に登録しております。地球環境や海外におけるさまざまな事業に協力させていただいております。バブルがはじけた後は世論も余り取り上げないようですが、企業メセナはなくなったわけではありません。

西川 そうですね、私どもは今後も日本舞踊の普及、振興のための努力はし続けてまいります。そしてオペラも同様にわが国で発展していただきたいと念じております。ところで他に教育関係の事業にも携わっていらっしゃるとうかがいましたが。

高梨 中高一貫の学校に関係しております。渋谷と千葉に二校あります。歴史は浅いのですが双方とも進学校として伸びております。

西川 それは素晴らしいことです。
高梨 中高一貫ですから思い切った事もできます。入学して最初の校外授業は野田に来てくれます。私の生家の博



物館や醤油工場を見学することにしているのです。毎年の行事にしておりますから、先輩から後輩へ自然と伝わって新入生も入学したら野田行きのことはほとんど知っているようなんですね。

西川 生家を博物館にされていらっしゃるのですね。

高梨 そうなんです。古い家なのですが、野田というところは震災にも戦災にも遭っていないのですね。永年保存されてきた建造物や、蔵の中に残っている歴史的資料や文書等があります。個人の所有物として保管するより広く公にしたほうがよろしいかと考えまして、上花輪歴史館と云う名で開館しております。

西川 それは是非とも拝見したいものです。

高梨 ありがとうございます。ただ母屋の屋根が老朽化しまして、今修理をしております。平成21年の春頃に完成する予定でございます。

西川 では再開された上花輪歴史館で再会いたしましょう。

高梨 お待ちいたしております。

西川 今日はありがとうございます。

高梨兵左衛門氏 プロフィール

昭和8年 千葉県野田市生まれ。

昭和31年 武藏大学経済学部卒業、野田醤油

株式会社(現キッコーマン株式会社)入社。

平成13年 同社代表取締役副社長で退任、現在同社特別顧問、株式会社千秋社社長、野田商工会議所会頭。

野田市に対しては、消防団長(10年間)勤め、現在 消防委員会会長の他、文化財保護審議委員会副委員長、文化団体協議会会长長、又、財団法人高梨本家を設立して生家を博物館として公開。

その他、文化、歴史活動として、財団法人歴史民俗博物館振興会理事、財団法人新国立劇場運営財団評議員、財団法人二期会理事、財団法人日本オペラ振興会評議員等を勤める。